

第143回京都市中小企業経営動向実態調査

貴社の概要を御記入ください。(該当する箇所には、○印を付けてください。電算処理しますので、お手数ですが漏れなく御回答ください。)

会社名														
経営形態	法人・個人	資本金					万円	電話				—		
設立年	(明治以前・明治・大正・昭和・平成・令和)						年	従業員数				人(うち非正規人) ※2		
※1 業種	製造業：A西陣・B染色・C印刷・D窯業・E化学・F金属・G機械・Hその他の製造													
	非製造業：I卸売・J小売・K情報通信・L飲食店、宿泊・Mサービス・N建設													
	観光関係の売上げ：1 50%以上 2 25%以上50%未満 3 10%以上25%未満 4 0%超10%未満 5 なし 観光客を対象とする製品を作る製造業、商品を扱う卸売業、小売業及びサービスを提供するサービス業などの売上げの割合を指します。													
主な製品、商品、サービス														
御記入者	部課：		役職：				氏名：							

※1 業種の記入につきましては、別紙「記入上の注意」を御覧ください。

※2 非正規・・・パート、アルバイト、契約社員、嘱託社員など

(1) 貴社の経営状況についてお尋ねします。該当するものに○印を付けてください。

項 目	期 間	令和4年4月～6月の実績 (前年の同期と比較して)			令和4年7月～9月の予想 (令和4年4月～6月期と比較して)		
		上 昇	不 変	下 降	上 昇	不 変	下 降
貴社の業況		上 昇	不 変	下 降	上 昇	不 変	下 降
生産加工量・販売量		増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少
経常利益(税引前)		増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少
製品・加工単価、販売単価		上 昇	不 変	下 降	上 昇	不 変	下 降
仕入単価		上 昇	不 変	下 降	上 昇	不 変	下 降
製品・商品在庫量		過 剰	適 正	不 足	過 剰	適 正	不 足
雇用人員		過 剰	適 正	不 足	過 剰	適 正	不 足
資金繰り		楽	普 通	苦	楽	普 通	苦
同業他社との競争		激 化	不 変	緩 和	激 化	不 変	緩 和
※「製造業」 を営む方 のみ回答	受注残	増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少
	生産設備	過 剰	適 正	不 足	過 剰	適 正	不 足
	設備投資	し た	し て い な い		す る	し な い	

(2) 該当するものに○印を付けた理由を御記入ください。

(令和4年4月～6月の実績)

(令和4年7月～9月の予想)

(3) 貴社の当面の経営戦略についてお尋ねします。該当するものに○印を付けてください。(複数回答可)

- 営業力の強化(顧客・市場開拓)
- 生産・経営の合理化
- 人材確保・育成
- 新規産業分野への進出
- 自社ブランドの育成
- 新商品の開発・販売
- 研究開発体制の強化
- 情報収集・分析力の強化
- その他()

(4) 貴社の経営上の不安要素をお尋ねします。該当するものに○印を付けてください。(複数回答可)

- 競争激化
- 売上不振
- 人材育成
- 値下要請
- 仕入値上要請
- 原材料(特に)価格上昇
- 金利上昇
- 販売価格安
- 技術力不足
- 後継者問題
- 人手不足
- 人件費増加
- 為替動向
- その他()

(5) 新型コロナウイルス感染症による3～5月の売上の減少についてお尋ねします。

	2019年の同月との比較(コロナ前)	2020年の同月との比較	2021年の同月との比較
3月			
4月			
5月			
選択肢	1. 50%以上	2. 30%以上50%未満	3. 15%以上30%未満
		4. 15%未満	5. 増加

【付 帯 調 査】ロシア・ウクライナ情勢に係る影響及び価格転嫁等に関する調査について

1 ロシア・ウクライナ情勢に係る貴社への影響についてお尋ねします。

A. 貴社はロシア・ウクライナ情勢に係る影響を受けていますか。(該当するものに○印を付けてください)

- | | | |
|--------------------|--------------------------|--------------|
| 1. 既にマイナスの影響を受けている | 2. 今後マイナスの影響を受けることが見込まれる | |
| 3. 影響はない | 4. わからない | 5. プラスの影響がある |

B. Aで、1又は2を選択された方にお尋ねします。

具体的にどのような影響を受けていますか。(該当するものに○印を付けてください。(複数回答可))
また、回答いただける範囲で、マイナスの影響の具体的な内容を記入してください。

- | | | |
|----------------|-----------------------|----------------|
| 1. 売上減少 | 2. 仕入れ(輸入含む)に支障 | 3. 輸出に支障 |
| 4. 原油高騰による利益圧迫 | 5. 原材料(原油除く)高騰による利益圧迫 | 6. 為替変動による利益圧迫 |
| 7. その他() | | |

具体的な影響の内容:

(例)ロシア・ウクライナ現地からの部材調達が遅れており、納期に間に合わない。

C. Aで、5を選択された方にお尋ねします。具体的にどのような影響を受けていますか。(自由記述)

2 原油・原材料高騰に伴う貴社の価格転嫁の状況及び省エネ化への対応についてお尋ねします。

D. 貴社は原油・原材料高騰に伴い価格転嫁を実施できていますか。(該当するものに○印を付けてください)

- | | |
|---------------|--------------------------------|
| 1. 価格転嫁を実施した | 2. 段階的に価格転嫁を行っているところ |
| 3. 価格転嫁できていない | 4. 価格転嫁する必要がない(原油・原材料高騰の影響がない) |

E. Dで、3を選択された方にお尋ねします。

価格転嫁できていない理由を教えてください。(自由記述)

F. 原油高騰に対応した省エネ化について、貴社では省エネ化の必要性を感じていますか。
(該当するものに○印を付けてください)

- | | |
|-----------------------------|---------------|
| 1. 必要性を感じており、既に省エネ化を進めている | 3. 必要性を感じていない |
| 2. 必要性は感じているが、省エネ化に着手できていない | |

G. Fで、2を選択された方にお尋ねします。

省エネ化に着手できていない理由を教えてください。(該当するものに○印を付けてください。(複数回答可))

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1. 省エネ化のための具体的な取組がわからない | 2. 省エネ化のための資金的余裕がない |
| 3. 省エネ化のための人的余裕がない | 4. 省エネ化の効果(成果)がわかりにくい |
| 5. その他() | |